

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和8年5月

1 さとうきび製糖終了！収穫量は計画を上回る

4月、奄美大島と喜界島で、令和7～8年期のさとうきび製糖が終了しました。両島とも収穫面積は前年より減少したものの、収穫量は約2割増加し、計画を上回りました。台風被害が少なく気候に恵まれたことに加え、病害虫防除や適正施肥など、生産者による栽培管理の徹底が高収量につながったと考えられます。農政普及課では、引き続き、関係機関と連携した技術指導や省力化技術の普及等を通じ、さとうきびの生産性向上に努めてまいります。



さとうきび収穫の様子



製糖工場の様子

2 奄美たんかん出荷販売反省会が島内4か所で開催

4月30日と5月1日に、島内4箇所で奄美たんかん出荷販売反省会が開催されました。令和7年度産のたんかんは、各生産者から販売申込みがあった71tの計画を大幅に超えた121tの出荷量がありました。全国的に柑橘類が豊作傾向の中での販売は難航し、単価はキロ497円と去年の608円を下回りました。生産者からは、出荷見込み数量の見誤りが課題であり、次年度以降は収穫前の収量予測精度を高める必要性が指摘されました。着果量が多かったため、今後、樹勢回復に向けた栽培管理に努める必要があります。



たんかん出荷販売反省会の様子

3 瀬戸内町で畜産座談会が開催される

5月、瀬戸内町で畜産農家を対象とした座談会が開催され、畜産経営の現状や今後の取組等について意見交換を行いました。飼料費の高騰や畜舎・機械の老朽化、労力不足などが課題として挙げられ、生産者からは対応策として、経費削減が期待できるトランスバーラ(飼料作物)の作付けや子牛への自給粗飼料活用などの意見が出ました。また、参加した4戸の肉用牛農家については、過去5年間の経営状況および繁殖技術のデータをもとにした個別カウンセリングを実施し、経営改善に向けた取組事項を関係機関も含めて共有しました。今後、座談会や個別カウンセリングで得た意見をもとに、畜産農家の経営維持・発展に向けた支援を進めていきます。